



身近なかかりつけ医として

玄界灘に浮かぶ相島(あいのしま)に赴任して丸二年がたち、現在三年目の勤務をしています。島の生活に慣れるには案外苦勞せず、現在では自ら釣った魚を料理するまでになりました。

私がそれほど問題なく相島に溶けこめたのは、ここでの生活が私が生まれた三十年ほど前と似ており、違和感を覚えなからだと思えます。相島では皆が顔見知りで、お互い助け合って生活しています。

離島ならではの

昨年三月の福岡県西方沖地震の時も、住民同士でいたわり合ったり、一人暮らしの方々が共同で公民館で夜を過ごしたりと

いう光景が見られました。住民が診療所に対して協力的なことは気持ち良く働ける要因となっています。赴任して一ヵ月たったころ、急患を島外の病院へ搬送することになりました。

運航する人、患者さんを運ぶ人などがあつという間に集まってくれ、驚くほどの早さで病院へ向けて出港できたのです。離島

の住民ならではの連携の良さ、機敏な行動に感心させられた出来事でもありました。

相島は離島とはいえ、対岸へは二十分足らずで到着でき、島のすぐ向こう側では福岡市に隣接するベッドタウンとしての都市の生活があります。

対岸の港からはバスが運行されており、公共機関や買い物へのアクセスは良好です。医療機関の選択肢も数多くあり、普段から島外の医療機関を利用する住民もいます。

また、私にとつても、専門医への紹介がしやすいというメリットがあり、離島だからと一人で全住民の全疾患を診ているわけではありません。

「余裕」が何より

赴任当初は、思ったより患者数が少ないことに多少拍子抜けし、あまり信頼されていないかと残念に思うこともありまし

た。しかし、複数の医療機関の中から選択できるということは現代の日本では当然のことであり、それを否定することはできません。

では、診療所の良いところは何かというと「余裕がある」とだと思えます。自宅から近く、好きな時間にかかることができ、待ち時間が少なく、ゆっくり医師と話ができるということです。

また、職員全員が患者さんの病気だけでなく、生活の背景を知っていることも利点です。病気に対して一律に同じ対処をするのではなく、個々の患者さんに合った方法を提案できるので

す。最近では、離島の住民も高度な医療を志向するようになっていきます。他の医療機関との比較を受けてもなお、身近なかかりつけ医としての利点が認められるよう活動し、診療所を利用する患者さんを大切にすることが私の職務だと考えています。(次回予定は長野県)

定金 敦子 22期・1999年卒



相島産の海産物を使った自作の料理。アジの刺し身、カワハギの煮付け、こぶのり(海藻の一種)のサラダ

福岡県新宮町相島診療所

【私の勤務地】相島は福岡県新宮町の7.5キロ沖に位置する離島で、人口は約390人。相島診療所は島内唯一の医療機関で、医師1人、看護師1人、事務1人が勤務する。1987年から自治医大卒業生が継続的に派遣されるようになった。